

大誓寺 聖徳太子像

浄土宗 横浜市栄区小菅ヶ谷

聖徳太子像

浄土宗で西光山普應院と号す。『新編相模風土記稿』には、昔、大誓寺の太子堂にあった本尊は「親鸞聖人が當村石室にて彫刻せし七躰の一なりと云う」と書かれているが、現存する太子像は近年、市指定の際に解体修理が行われた際に調査した結果、文明元年(1469)に造立されたものと判明した。その為、鎌倉七太子の1軀の行方は解らなくなってしまった。

太子矢倉

何故、浄土宗の寺院に親鸞聖人作の聖徳太子像が伝えられているのか詳細は不明である。しかし、親鸞聖人自作ということ伝えて来た理由として考えられることがある。大誓寺の近くに宿谷戸という地名があり、この周辺は小高い丘陵地が多く、その谷状の地形を谷戸と言う。宿谷戸付近に以前石室があり、『新編相模風土記稿』によると、石室は周



大誓寺 聖徳太子像

辺の住人からは「太子矢倉」と呼ばれ、親鸞聖人が石室の中で、聖徳太子の像を7躰彫ったことから、そのように呼ばれていたようである。

その伝承に基づいて、大誓寺の太子像は「親鸞聖人自作のもの」という伝承が引き継がれてきたと考え、現在の太子像は作成年代が違うものであっても、以前には「自作」の太子像が存在していたのかもしれない。